皆の広場

素人の神話考①「世界神話の概要」

自文科　永野　徹

[1]世界神話概論

H30.1.3

(1)序　論

1)はじめに

世界三大神話と言えばｷﾞﾘｼｬ神話、インド神話に次いで、3番目に日本神話（古事記神話）を上げたい。 他にも口頭等で伝承されている神話はあるかも知れないが、明確な記録として残っているものはこれ等3神話ではないでしょうか。（古事記の記録伝承に感謝）
古代の人類に共通して、国家が形成される過程で個人的には不可解なものに対する恐怖感の昇華と集団社会的には共同生活をする上で共通観を醸造する意味で支配階級が必要としたものではないでしょうか。三大神話の漠とした特徴とそれ等の印象を以下に列挙する。

2)ｷﾞﾘｼｬ神話

まずｷﾞﾘｼｬ神話は、困った事に神話を纏めた著名な作者が数人いて、共通部分もあるが全く違う部分も有るため読んでも混乱が起きてしまう。 大きくは、汎用ｷﾞﾘｼｬ神話とｵﾘﾝﾎﾟｽ神話である。有名なｷﾞﾘｼｬ三大悲劇作家により現在あるｷﾞﾘｼｬ神話が完成された。
（インド神話）
ｲﾝﾄﾞ神話の時間は途方も無く果てしなく長い。有名な3神（ﾌﾟﾗﾌﾏ神、ｳﾞｨｼｭﾇ神、ｼｳﾞｧ神）は同一神（ﾄﾘﾑﾙｰﾃｲ）であると言われる。インド神話を代表する作品は国造り英雄の2大叙事詩（ﾏﾊｰﾊﾞｰﾗﾀとﾗｰﾏｰﾔﾅ）である。

3)ｲﾝﾄﾞ神話

インド神話はバラモン教・ヒンドゥ教・仏教等のｲﾝﾄﾞ宗教によって伝承されたもので、ヴェーダ神話（リグヴエーダ：神々の讃歌）はバラモン教で、叙事詩・プラーナ神話はヒンドウー教で、ブラーフマナ・ウパニシャッド神話はバラモン教とヒンドゥー教の両者で伝承去れてきた。ヴェーダ神話はデーヴァ神族（現世利益を司る神：雷神インドラ等）アスラ神族（倫理と宇宙の法を司る神）は神通力と幻術を用いて人々を賞罰すると畏怖された神が後には、神々に敵対する悪魔を指すようになった。
ブラーフマナ（祭儀書）ではプラジャーパテイ（創造神）が最高神、またウパニシャッド（奥儀書）は神秘的哲学を説くものでｲﾝﾄﾞ神話の世界観に大きな影響を与えた。
ヒンズー教の2大叙事詩は「マハーバーラタ」と「ラーマ―ヤナ」である。400年頃にほぼ現代の形に纏め在られたと言われている。

4)日本神話　高天原の神々の誕生～国ツ神誕生

正式に日本神話と呼ばれるものはないが、古事記の神代について記載された内容を指す。カオスの世界から始まり、国土形成話が展開して初期段階では独り神が多数誕生、続いて、双び神が誕生、その後神世七大神の最後にｲｻﾞﾅｷﾞとｲｻﾞﾅﾐが誕生する。
カオスから国造りが始まるパターンは南太平洋（ポリネシア）神話、ハワイ神話、東南アジア神話と共通する要素が有り、大昔において既に何等かの遠距離情報伝達があったのではと推測される。

(2)ギリシャ神話

1)はじめに

人類最初で最高の叡智と人間性を兼ね備えたｷﾞﾘｼｬ文明の根源となる偉大な叙事詩で主題と成る「ｷﾞﾘｼｬ神話」は人間性を基盤とした神々で人々を魅了して止みません。古代ギリシャ神話の特徴は人間に似せると言う擬人化にあると言えます。ギリシャ人は神々も人間にありがちな感情や弱点を持っていると想像して恋をし嫉妬し、憎しみ、時に人間をいじめたりするものと考えましたが人間との明確な違いは神々は不滅で不変であったこです。神話の初期の段階では信じがたい怪物たちや恐ろしい悪魔の破壊活動が主体でしたが、やがてゼウス神が誕生してギリシャ神々の主神となり、世界も落ち着き秩序と平穏が保たれるようになった。紀元前5世紀、ｱｲｽｷｭﾛｽの時代にはゼウスは高徳化され人類を高揚してギリシャの古典時代を最高潮にした。ﾎｰﾏｰの時代には神々は既にゼウスは理想の支配者としてﾐｹｰﾈ社会のモデルを形成していました。

2)神話作成経緯

1。「ｲｰﾘｱｽ」と「ｵﾃﾞｭｯｾｲｱ」（BC8世紀）

・作者はﾎｰﾏｰ(BC8世紀後半)：大叙事詩「ｲｰﾘｱｽとｵﾃﾞｯｾｲ」と34賛美歌

「ｲﾘｱｽ」は今のﾄﾙｺ北西海岸で栄えていたﾄﾛﾔにｷﾞﾘｼｬ軍英雄達が遠征して十年間の戦いの末に攻略した「ﾄﾛﾔ戦争」が物語られている。「ｵﾃﾞｭｯｾｲｱ」はﾄﾛﾔ戦争でｷﾞﾘｼｬ軍が勝つ為に有名な「ﾄﾛｲの木馬」の計略を考え出した知恵者ｵﾁﾞｭｯｾｳｽと言う英雄の話が語られている。また、「ホメロス讃歌」と総称されるBC（8～6）にﾎﾒﾛｽ他多くの詩人により作られた。それぞれの神々を主人公にして讃えた詩３３？３４？編がある。

2。「神統記」（BC8世紀）

・作者はﾍｼｵﾄﾞｽ（BC8世紀前半）:「神統譜」と「仕事の日々」等の叙事詩
「神統譜」は現在あるｷﾞﾘｼｬ神話の原形となる主要なｽﾄｰﾘを物語る大作である。
「仕事の日々」の主な内容は農夫に対する教訓であるがその前置きとしてﾊﾟﾝﾄﾞﾗの話をはじめとしていくつかの重要な神話がこの詩にも語られている。

3. 詩人達（BC5世紀）

・ﾋﾟﾝﾀﾞﾛｽ(BC518～438)：叙事詩の大詩人でオードの創始者
5世紀初頭に作られたﾋﾟﾝﾀﾞﾛｽの「合唱歌」の中でも色々な神話が興味深く取上げられている。

3)ｷﾞﾘｼｬ「三大悲劇」

①BC6～5　ギリシャ･ｱﾃﾈの三大悲劇作家（ｱｲｽｷｭﾛｽ、ｿﾌｫｸﾚｽ、ｴｳﾘﾋﾟﾃﾞｽ）の作品により多くの物語が現在あるような神話に完成された。
・ｱｲｽｷｭﾛｽ(BC524～456)：偉大な悲劇作家で約90の作品がある
ｱｲｽｷｭﾛｽの作品には神話の話題が多い。
・ｱﾚｸｻﾝﾄﾞﾘｱ詩人たち：ﾛｰﾄﾞｽのｱﾎﾟﾛﾆｳｽ、ﾊﾞｲｵﾝﾙｷｱﾉｽ、ｱﾎﾟﾛﾄﾞﾛｽ

①(BC2～AD1)　・ﾊﾞｳｻﾆｱｽ(BC2世紀)：「ｷﾞﾘｼｬ紀行」の作家で歴史・地勢等で神話の源
・紀元後1世紀頃に博学の学者によりギリシャ神話全体のあらすじを要約し標準的な概約書が完成した。

②（ローマ時代）・ローマの作家たち：ｳｴﾙｷﾞﾘｳｽ、ｵｳﾃﾞｲｳｽ、ﾎﾗﾂｳｽ
ローマのｱｳｸﾞｽﾄｳｽ皇帝時代にラテン語で書かれた詩人ｵｳﾃﾞｲｳｽの「変身物語」は全編で神話が詠われ宝庫と呼べる内容である。

（３）インド神話

１）インドの宗教概観

インドの国土は日本の約8.7倍、人口は11億人超でその内約８３％がヒンズ一教徒内約70％がヴィシュヌ派、約２５％がｼｳﾞｧ派、残りがｼｬｸﾃｲ派とその他が占める。
ｲﾝﾄﾞの宗教は「多様性の統一」と言われ性格の異なる無数の神々で、信仰はﾋﾝｽﾞｰ教として纏められている。常に変容を繰り返して現在も新しい神が生まれ続けていると言う。紀元前１０世紀頃に「ヴェーダ聖典」の原形を成立したｱｰﾘﾔ人は祭祀中心のバラモン教を形成して行った。仏教や、ｼﾞｬｲﾅ教の興隆で一時影を薄くしたが紀元前3世紀頃にはそれまでの宗教的要素を集大成したヒンズ一教が誕生した。
現代のｲﾝﾄﾞを旅すると商売繁盛の神が掲げられたり、本にも神話の神々が最初に登場するのは19世紀後半の画家ｳﾞｧﾙﾏｰの影響が大きい。彼は大衆宗教画の原点のような作品を作り、版画で複製した。

２）三神一体神話（トリムールテイ）

ｲﾝﾄﾞ神話の時間は途方もなく果てしなく長い。 人々の生きる世界は創造から終焉まで４３億２千万年で、現在は4期に分れた最後の「ｶﾘ･ﾕｶﾞ」の時期にある。4期の世界は紀元前3000年頃に始まり、４３万２千年後には7つの太陽によって100の干ばつが起き12年間雨が降ったあとに大洪水に呑み込まれて無くなると説く。
その後新たに世界は再生されると言う。その創造を司る神が「プラフマー神」で、維持を任される神が「ヴィシュヌ神」、破壊を担う神が「シヴァ神」でこの三神は究極的には同一神＝「トリムールテイ(三神一体)」であると言われる。
宇宙ｴﾈﾙｷﾞｰの源となる三大神とその妃のペアーは次のとおり。
①プラフマー神とサラスヴァテイー妃
②ヴィシュヌ神とﾗｸｼｭﾐｰ妃
③シヴァ神とﾊﾟｰﾙｳﾞｧﾃｲｰ妃

３）二大叙事詩「ﾏﾊｰﾊﾞｰﾗﾀ」「ﾗｰﾏｰﾔﾅ」

人類は数多くの叙事詩を持つがｲﾝﾄﾞ叙事詩のｽｹｰﾙは完全に他を圧している
ﾏﾊｰﾊﾞｰﾗﾀはｷﾞﾘｼｬ大叙事詩ｲｰﾘｱｽ、ｵﾃﾞｯｾｲを合わせた7倍にも相当する長編。
「ｳﾞｪｰﾀﾞ」はヒンズ一教の祭典として祭祀階級のためのものと言う性格が強くて二大叙事詩に共通している事は、宗教的、社会的伝承の強い物語であるが広く大衆に開かれた作品であったと言える。更に両叙事詩の主要なｽﾄｰﾘｰの割合はﾗｰﾏｰﾔﾅが1/3、ﾏﾊｰﾊﾞｰﾗﾀが1/5で、夫々付随させた物語（古い伝承や説話の

集大成)の方がﾗｰﾏﾔﾅで2/3、ﾏﾊﾊﾞﾗﾀで4/5とはるかに長いと言う特徴がある。
主人公は夫々ｳﾞｨｼｭﾇ神の化身であるﾗｰﾏ(ﾗｰﾏｰﾔﾅ)とｸﾘｼｭﾅ(ﾏﾊｰﾊﾞｰﾗﾀ)である。
ｸﾘｼｭﾅｰに関わる部分はBC7世紀以前ﾏﾄｳﾗｰに実在した人物で宗教的自覚を
達成した後、実践倫理を強調する新しい宗教を広めた人がモデルといわれる。
この二大叙事詩は2000年以上に渡りインドの民衆の心に住み続けてきた作品

「ﾏﾊｰﾊﾞｰﾗﾀ」

「ﾏﾊｰﾊﾞｰﾗﾀ」は遥か昔ｲﾝﾄﾞのﾊﾞｰﾗﾀ王の子孫であるクル族に起きた歴史上
の大戦争をもとに編纂された物語でBC3世紀ごろにはほぼ出来上がり、
AD4世紀に完成を見た。編纂者は聖仙ｳﾞｨﾔｰｻとなっている。

「ﾗｰﾏｰﾔﾅ」

一方、「ﾗｰﾏｰﾔﾅ」は勇敢なﾗｰﾏ王子が悪魔に連れ去られた姫を取り戻す
英雄物語で、BC5世紀には原形が出来きAD2世紀頃に完成したようで
編纂者は詩仙ｳﾞｧｰﾙﾐｰｷと言われている。

(4)日本神話の概要(古事記)

1)天地開闢～ｲｻﾞﾅｷﾞ誕生まで

天地開闢

混沌(ｶｵｽ)の世界にやがて天と地が分かれる
天の世界:　高天原(タカマガハラ)、神々の居住地
地の世界:　葦原中国(ｱｼﾜﾗﾉﾅｶﾂｺｸ)・・水穂の国
地底の国:　黄泉の国(ﾖﾐﾉｸﾆ)

(高天原)　高天原の神々の誕生;

別天つ神　(ｺﾄｱﾏﾂｶﾐ)

三柱誕生

①天御中主神(アメノミナカヌシノカミ)　②高御産巣日神(タカミムスヒノカミ)

独り神　③神産巣日神(ｶﾑﾑｽﾋﾉｶﾐ)④ｳﾏｼｱｼｶﾋﾞﾋｺｼﾞﾉｶﾐ

双び神　⑤天之常立神(ﾃﾝﾉﾄｺﾀﾁﾉｶﾐ)

神世七代　①国之常立神(ｸﾆﾉﾄｺﾀﾁﾉｶﾐ)②豊雲野神(ﾄﾖｸﾓﾉｶﾐ)・・③以後双び神(夫婦)

(七代目):創世記最後の双び神;

イザナキ　⑦-1伊耶那岐神(イザナキのカミ)男神

イザナミ　⑦-2伊耶那美神(イザナミのカミ)女神

(国創り) イザナキ、イザナミの国造り、神造り儀式(土地、敷地、門、男女の各神)

(初仕事) 天空に浮かぶ天の浮橋にて「天の沼矛」をかき混ぜ地上初めての国土誕生
地上初めての国土誕生:「オノコロ島」(淡路島沖の絵島)

(初土地) オノコロ島天の御柱と八寿殿(神殿)
天の御柱の周りで契りの儀式により、国造り開始

(島創り) 大八島誕生・・淡路、四国、隠岐、九州、壱岐、対馬、佐渡、本州(大倭豊秋津島)
六つの島々・・吉備小島、小豆島、大島、姫島、五島列島、双子島

(神創り) 17柱誕生
住居神々:岩巣、大戸、大屋・・・(7柱)
自然の神:　海河水(3柱)風木山野(4柱)
生産の神:(船、食べ物、火)

イザナミの死

火の神(カグツチ)を産み大火傷が原因で死亡する
(埋葬地)　広島県北部の比婆山(紀伊の国熊野説もある)

イザナキ(黄泉国訪問～黄泉国脱出)

イザナキはイザナミを連帰るため黄泉の国を訪問したが生返らすことは
不可の為引上げようとすると黄泉国の魔物に攻められる
黄泉醜女(ﾖﾓﾂｼｺﾒ)撃退・・・山葡萄、竹の子
黄泉軍(ﾖﾓﾂｲｸｻ)雷・黄泉比良坂(ﾖﾓﾂﾋﾗｻｶ)の戦い・桃撃退(偉大な神の力)
黄泉比良坂(ﾖﾓﾂﾋﾗｻｶ)=現在の出雲(伊賊夜坂)

イザナキ禊

黄泉の国から戻ったイザナキは日向(阿波岐原)にて禊払し三柱の神等出現
ワタツミ三神(海の神)博多湾の安曇連:ｿｺﾜﾀﾂﾐ・ﾅｶﾜﾀﾂﾐ・ｳﾜﾜﾀﾂﾐの三神
ツツノヲ三神(航海の神)難波住吉大社:ｿｺﾂﾂﾉﾖ・ﾅｶﾂﾂﾉﾖ・ｳﾜﾂﾂﾉﾖの三神

三神誕生　左目禊・・天照大御神(ｱﾏﾃﾗｽｵｵﾐﾉｶﾐ):太陽の女神・・高天原支配
右目禊・・月読の命(ﾂｸﾖﾐﾉﾐｺﾄ):月の神・・夜の国支配
鼻禊・・・建速須佐之男命(ﾀｹﾊﾔｽｻﾉｵﾉﾐｺﾄ):嵐の神・・海原支配